

決議

ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ前ブラジル大統領を支持するインダストリアル・グローバル・ユニオン執行委員会の決議

インダストリアル・グローバルユニオン執行委員会は、今年4月26～27日のスイス・ジュネーブ会合において、元ブラジル大統領の同僚ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバの投獄を完全に否認する。最近のブラジルの歴史におけるこの悲劇的な事件は、合法的に選出されたジルマ・ルセフ大統領の弾劾によって2016年に始まった議会クーデターの新たな段階である。

ブラジルならびにラテンアメリカ全体で最も重要な政治指導者であるルーラの有罪判決は、来る大統領選での立候補の阻止を明確な目的とする政治・司法による迫害の結果である。

ブラジルの最高裁判所をはじめとする司法制度は、マスメディアや議会保守派と共謀し、反動的エリートと大規模業界団体の支援を受けて、自らの正当性を証明せずにルーラに刑事上の有罪判決を下した。司法当局は連邦憲法まで無視している。憲法は、被告はあらゆる上訴手段を尽くしたうえで刑に服さなければならない、と明記している。

ルーラは隔離された政治犯で、ブラジルの司法制度によって、刑務所の内外を問わずいかなる種類の接触も禁止されている。司法制度はルーラとの面会要請をすべて却下しており、ジルマ・ルセフ元大統領やレオナルド・ボフのような友人、上下両院議員、ノーベル平和賞受賞者といった国際的権威も面会を断られている。最近では今週、主治医さえ会見を許可されなかった。ルーラを黙らせようとするこれらすべての試みは事態を悪化させており、ルーラの釈放はブラジルの民主主義を回復するために不可欠な措置である。

この困難な時期に、私たちはルーラと彼の家族、労働者党およびブラジル国民との連帯を表明する。公共政策の解体、労働権の廃止、民営化によるネオリベラル政策の導入、国家主権の放棄、貧困の悪化が原因で、国民は数々の大きな問題に直面している。

最後に私たちは、民主主義と同僚ルーラの自由を守るために、全世界の労働者階級の団結が重要であることを確認する。この目的を達成するために、インダストリアル・グローバルユニオンと他のグローバル・ユニオン・フェデレーションに対し、すべての大陸の加盟組織が、この重要な闘いにかかわり、クリティバのルーラを訪問する代表団を派遣し、ルーラへの書簡送付、世界中のブラジル大使館前でデモの組織、ルーラに対して取られた措置の独断性の非難によって連帯を表明するよう奨励することを求める。

6月にジュネーブで開かれるILOの国際労働総会（ILO総会）で、この問題を告発し、これらの事実を述べるのが基本的に重要である。ILOに対し、この問題に関

する声明の発表を求めることも重要である。これらの独断的な措置は、ブラジルが非常事態にあることを示しており、国際文書とブラジル憲法で認められた人権および個人の権利の行使に完全に反しているからである。

この闘いは困難であり、抵抗が必要である——「私たちの夢を投獄することは決してできない」